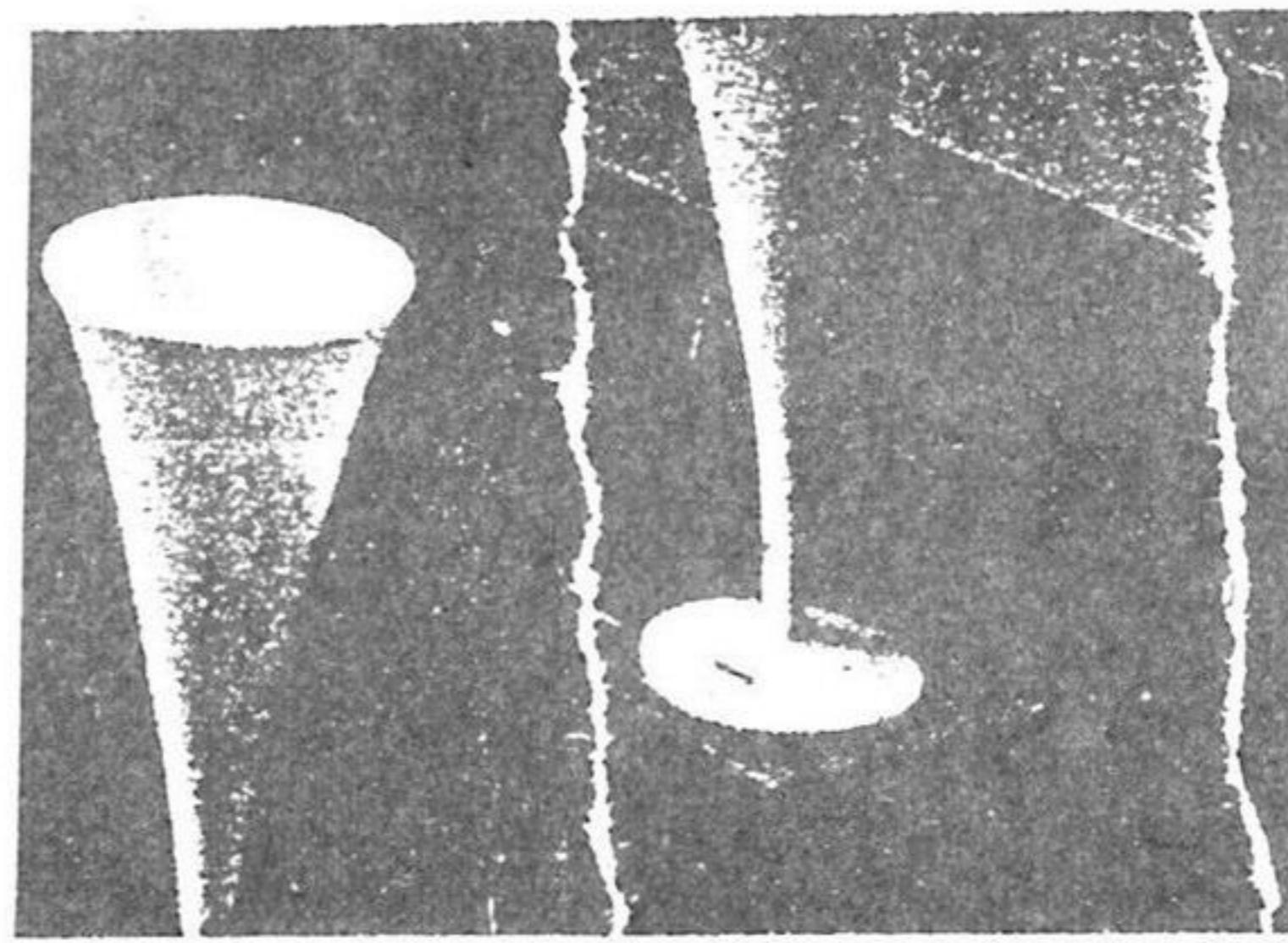


# STREET KID

瀧高等学校演劇部



登場人物	浮浪児	(哲也)	警官
（たけし）	（たけし）	（たけし）	6
（克哉）	（克哉）	（克哉）	5
（くす）	（くす）	（くす）	4
（パパ）	（パパ）	（パパ）	3
（サンピン）	（サンピン）	（サンピン）	2
（ラッパ）	（ラッパ）	（ラッパ）	1
（タバ）	（タバ）	（タバ）	他（オーブニングとラストのみの数人）
（チビ）	（チビ）	（チビ）	6
（パンパン1）	（かずさん）	（パンパン1）	5
（マイク）	（よしこ）	（マイク）	4
（ミッキー）	（かずさん）	（ミッキー）	3
ボールの子	（よしこ）	ボールの子	2
その父親	（かずさん）	その父親	1
その母親	（よしこ）	その母親	0
元軍人	（かずさん）	元軍人	0
通行人	（よしこ）	通行人	0
男（ラッパのおじさん）	（かずさん）	男（ラッパのおじさん）	0
他（ダンスのみの数人）	（かずさん）	他（ダンスのみの数人）	0
（浜田刑事）	（吉野刑事）	（浜田刑事）	0
（オーブニ	（オーブニ	（オーブニ	0
ングとラ	ングとラ	ングとラ	0
ス）のみ	ス）のみ	ス）のみ	0
の数人）	の数人）	の数人）	0

## 第一場

ロックのリズムによるダンス（浮浪児と警官の闘い）。ダンスが終わるとともに警官は去って浮浪児たちが残っている。

浮浪児全員 （辺りを油断なく見回し）ハア、ハア、ハア  
哲也 みんな、大丈夫か？  
他の浮浪児 うん。  
パパ まもる、まもるがいないよ。  
警官の笛が時々鳴り続ける。

哲也 なに、つかまつちましたのか？  
あっこ あいつまでつかまつちましたのかよ！  
克哉 まいったな、今日が浮浪者狩りの日だとは思わなかつたよ。  
かっこ やいいんだよ。  
くず 浮浪者狩りなら浮浪者狩りで大人だけつかまえりやいいんだよ。  
あっこ それは無理だと思うよ。あたしたちだって子供の浮浪者なんだから。  
克哉 ちくしょう！俺は絶対つかまらねえぞ！  
たけし だけど、収容所って一日三度メシ食えるんだろ？  
くいしんぼうのまもるなら喜んでるんじゃない？  
克哉 バカヤロ！そんなことねえよ、それにあそこのメシはこんな少しなんだ。おまえみたいなドジは食べられないよ。  
あっこ そうだよ！  
たけし そうなの……。  
サンピン メシの話、するなよ。腹減つてイライラしてんだから。

浮浪児、下手へ去る。笛とともに上手から刑事たち登場。  
タバ パパ 僕もですよ。昨日から何にも食べてないんですか  
哲也 タバ 俺、死にそうだよ。  
あっこ 哲也 よしつ、今晚……。  
哲也 あっこ 待つて、刑事！  
哲也 よしつ、いつもの場所に行くぞ！

浮浪児、下手へ去る。笛とともに上手から刑事たち登場。  
浜田刑事 小川君、君はむこうの方を捜してくれ。

警官1 入れ替わりに上手より登場、警官5・6辺りを警戒しつづける。

警官1 （敬礼をして）報告します。第三班、浮浪者五名、内女子二名、及び浮浪児四名収容しました。

浜田刑事 ごくろう。

笛。警官1敬礼し下手へ去る。入れ替わりに警官2・3下手から上手へ走り抜ける。

浜田刑事 一人も逃がすなよ。  
警官2・3 はい。

入れ違いに警官4下手から走って入ってくる。  
敬礼して、

警官4 報告します。第六班、浮浪者九名、内女子一名、

浮浪児三名、収容しました。

浜田刑事 ごくろう。第六班は続いて駅の周辺をあたつ

てくれ。

警官4 はい。（敬礼し、下手へ走り去る）

吉野刑事 浜田刑事。（上手袖から呼んだ後、頬を押

させて登場）

浜田刑事 おいつ、こっちはだ。

吉野刑事 イテテテッ：：

浜田刑事 どうした、やられたか？

吉野刑事 近頃のガキは力が強くて：：

浜田刑事 仕方ないよ。奴等も必死なんだ。

吉野刑事 ああいつたガキは少年院の方がお似合いです

よ。

浜田刑事 そうはいかんだろう。かっぱらいやカツアゲ

のような犯罪ならすぐにでもブチ込めるが、今日は浮

浪者狩りという名目で署をあげて全員動員されている

んだ。

吉野刑事 いっそのこと浮浪児だけ取り締まつたらどうですか？これから悪い芽を摘むという意味で。

浜田刑事 それは無理だ。今のあいつらには収容所及び

孤児院と相場が決まっている。親がないために町を

強い連続的な笛の音。

吉野刑事 浜田さん、どうやら見つかったようですね。

警官5 橋の辺りですね。

警官6 七・八人逃げ回っているようです。

吉野刑事 二班の連中だな。

吉野刑事 そんなことだから、あいつら何時までたっても甘えているんですよ。親がいなきや同情されるとでも思っているんじやないですか。

浜田刑事 そうかな？

吉野刑事 そうですよ。三度三度メシを食わせてもらえて、おまけにいろんな勉強まで教えてもらう。そういう所へ連れていってやろうというのに俺たちを目の敵にして逃げ回る。ガキはガキらしく素直に言うことを聞いて黙つて収容所でも孤児院でも行きやあいいんだ。

浜田刑事 まあ、そう興奮するな、あいつらはあいつらなりの生き方を考えているのかもしれないぞ。

吉野刑事 浜田さん、あいつらの肩持つんですか？

浜田刑事 そんなことはない。俺たちがどう思おうとあいつらは浮浪児なんだ。俺たちは刑事、浮浪児を取り締まる刑事なんだ。俺一人ああだ、こうだと言つてもお上の命令には逆らうことはできんからな。

浜田刑事 よし、みんな行くぞ！

浜田刑事・警官、上手へ去る。

第二場

吉野刑事 ペッ！やつたるか！（上手へ去る）

あっこ あたいも一緒に行きたい。

たけし （英会話手帳を見ながら） ウイ、ウイ、ウイズ・

ミー？

ミックキー イッシュヨニ イキマスカ？

浮浪児 いえす、いえす。

パンパン2 だめ！

ミックキー ベツニ カマイマゼン。

浮浪児 さんきゅー、さんきゅー。

パンパン1 だめなものはだめなの。

ミックキー オー、コチラ、コワイヒトネ。

パンパン1 別に怖くはないわよ。ガキは嫌いなだけ。

パンパン2 カズさん、あの子たちおなかがすいてるん

じゃないの。

パンパン1 そんなこと知ったことじやないわよ。

パンパン2 何だかかわいそうね。ねえ、あんたたちも

一緒にご飯食べに行く？

浮浪児 うん。

パンパン1 だめ！

浮浪児 ふん、クソババアー。

ミックキー クソババアー？

パンパン2 ミックキー。でも、あんなにかわいい子供た

ちなのに。

パンパン1 ガキを甘やかすとロクなことないわよ。

パンパン2 マイク、早く行きましょ。

マイク イエス。（やっと撮るのをやめる。）

哲也 食い物いっぱいある所？

パンパン1 そうよ。

チビ いいな。





元軍人 なんだ、お前たち。 (下手に逃げかけようと  
する)

下手よりあっこ、たけしが登場。元軍人があと  
ずさりすると、後ろからラッパ、タバ出てくる。  
下手より哲也が竹刀を持って登場。

哲也 おじさん、靴ぐらい磨かせてやれよ。

元軍人 ほー、おまえらたかりか。

哲也 チビ、磨きてえんだろ。

元軍人 僕はな、こう見えて元軍人なんだ。戦争に負

けても、まだまだおまえたちは負けん。おまえたち

みたいなガキを相手にしている暇は…… (浮浪児一

斉に足をならす)

(ひるんで) 暇はないんだ。

哲也 おじさんにも女房、子供がいるんだろ。

元軍人 そんな事、おまえたちは関係ない。

スッポン、一步出、みんなが後ずさりしてから、竹  
刀で元軍人を殴る。元軍人、倒れ、頭を抱えな  
がら呻き声をあげる。

哲也 おじさん、磨かせてやれよ。

元軍人 (立ちあがり) わかったよ。磨いてくれよ。

元軍人 (通行人にすがりつきながら) お願ひです。助  
けて下さい。

通行人 しつこいなあ。(元軍人を振りほどいて、上手  
へ去る)

タバ おじさん、下手にかかるとあんたも怪我するよ。

通行人 私、関係ないですから。

元軍人 だつたら、警察でもなんでも呼んで下さいよ。

通行人 勘弁して下さいよ。私、急いでるんです。(上  
手へ去ろうとする)

元軍人 (通行人にすがりつきながら) お願ひです。助  
けて下さい。

通行人 しつこいなあ。(元軍人を振りほどいて、上手  
へ去る)

克哉、前に出て元軍人を押し、くず、前に突き  
とばす。

哲也 どうした、払うのか、払わねえのか。

元軍人 払うよ。まったく近頃のガキは。

あっこ ガキで悪かったな。

哲也 さっきおじさん軍人だって言つてたよな。あんた  
たちが戦争を始めるからこんな風になつちまうんだ。

元軍人 僕が戦争を始めたわけじゃない。

元軍人 でも、そんな風にしたのは大人達です。

パパ 俺はお国の命令で行ってきただけだ。

パパ 大人はいつもそやって責任転嫁ばかりするんで  
す。

元軍人 俺だって今は食うのが精一杯だ。おまえたちだ  
つて父ちゃんや母ちゃんが働いてるだろう。

チビ、サンピンと磨き手を出す。元軍人、チビに金  
を渡す。

チビ いくらある?  
十円。

哲也 足りねえだろ!

元軍人 それが相場だ。

タバ それじゃあ、みんなの腹はふくれねえんだよ。

元軍人 そんなこと俺が知るか!

ラッパ (たけしが繩とびをするのを指して) あいつ、  
繩の使い方すごいんだぜ。

元軍人 いいかげんにするのはおじさんの方だろ。

元軍人 わかったよ。五十円払やあいいんだろ。

元軍人 七十円。

元軍人 なに。

元軍人 くず 百円。

元軍人 おまえたち、そんな。

サンピン 二百円。

下手より荷物をいっぱい持った通行人歩いて来る。  
通行人が辺りを見た時に浮浪児一斉に足を  
ならす。通行人、ビクッとして立ち止まる。

元軍人 助けて下さい。こいつら俺に金をたかるんです。

元軍人 持つてる金全部な。オイツ。

タバ いねえもん。  
ラッパ 死んじやつたもん。

サンピン 父ちゃん、母ちゃんの顔なんか憶えてねえもん。

チビ 父ちゃん、母ちゃん殺したの、あんた達大人だ。

元軍人 僕のせいじゃない。

あっこ ぐだぐだ言つてんじやねえよ。さつさと出すも  
ん出せばいいんだよ。

克哉 持つてる金全部な。オイツ。

サンピン、タバ元軍人から金を奪う。

元軍人 悲しいもんだな、お国のために一生懸命働いて  
帰つてきたらこのざまか、これじゃあ、誰のために命  
をかけて戦つてきたのか、わかりやあしない。

あっこ あたしたち、誰も頼んじやいないよ。

あっこ 戰争なんて嫌いだよ。

たけし いつも腹減つたもん。

ラッパ つらかったもん。

サンピン 苦しかったもん。

哲也 僕達はよ、何も分からないま、軍事教練やらさ  
れたり、穴掘りやらされていたんだぜ。

克哉 住んでる所が危ないといつては無理矢理集団疎開  
させられて、そのまま父ちゃん、母ちゃんとおさらば  
よー。

たけし いつも大人はそなんだよ。俺達の事考えもし

ないで自分の思いだけで何でも押し付ける。  
くす俺たち人形じゃないんだ。右向け右はもうたくさんだ。

元軍人 しかし俺もそうやつて教えられてきた。

タバ ジゃあ、いったい誰が悪いんだよ。

元軍人 そんな事俺が知るか。

哲也 そうだろ。誰もわかりやしない。だから俺達は俺達で生きていくことにしたんだ。

克哉 大人に命令されない、俺達のやり方でな。

あっこ おじさん、運が悪かったね。でも感謝してるよ、あたし達に食い物めぐんでくれて。

元軍人 ふざけるな！お前達は…。

浮浪児 いつせいにポーズ。チビはサンピンの後ろに隠れる。

克哉 早く帰ったほうがいいよ。

哲也 あんまり長居すると身ぐるみはがされるぞ。

元軍人、上手へ走り去る。浮浪児、それを見守る。

浮浪児全員 やつたあ。これで食いもんにありつけるぞ。

哲也 いくらある？

タバ 三百二十円。

浮浪児全員 やつたあ。これで食いもんにありつけるぞ。

哲也 あんまり長居すると身ぐるみはがされるぞ。

克哉 早く帰ったほうがいいよ。

川越まで行けばきっとわけてくれるからよ。

克哉 金で米買えるのか？

くす 途中でなんか品物買って物々交換やつた方がいいよ。

パパ 僕もそれが賢明だと思います。

あっこ 近頃じゃあ金を出しても米をわけてくれないつていうからね。

パパ 行こう。

ラッパ うん。

たけし てっちゃん、俺行きたい。

あっこ だめだよ。だつてこいついつもへマばかりやつてるもん。

たけし 今度はしっかりやるからさあ。だから、俺に行かせてくれよ。どうしても行きたいんだよ。

くす だけどなあ。

克哉 行ってもまたドジして戻ってくるだけだぞ。やめとけ。

たけし そんなことないよ。

哲也 よし、行つてこい。おい、パパ、お前も一緒についていいつてやれよ、心配だからな。

パパ はい。

たけし いいよ、いいよ。これぐらい俺一人で十分だよ。

サンピン 本当に一人で行けるのか、今から行つたら帰りは明日の朝になるぜ。大丈夫かよ。

サンピン こっちは細かい金で八十五円。  
浮浪児全員 やつたあ！

浮浪児、哲也を中心にする。

哲也 よしつ、買い出しに行こうぜ。何がいい？

パパ 団子。

タバ すいか。

あっこ すいとん。

くす うどん。

チビ まんじゅう。

たけし 本。

克哉 本じゃ腹がふくれねえよ。

タバ ラッパ 食えるもんなら何でもいいよ。

サンピン やっぱり白いめしが食いてえなあ。

哲也 そうだな。やっぱり白いめしがいいよなあ。

ラッパ 麦なんか入っていないやつ。

あっこ おいしいだろうな。まっしろで目なんかつぶれちやうよ。

チビ あたい、そんなの見たことないよ。

タバ タバ たきての御飯っていうのは米がたってるんですよ。

哲也 おかもの底はおこげでよー。

たけし お前だから信用できねえんだよ。

克哉 たけし 大丈夫だよ。

哲也 よし、たけし、本当に大丈夫なんだな。

たけし うん。

哲也 この金全部渡すから絶対落とすんじやないぞ。

たけし まかしておけよ、たくさん交換してくるからね。

チビ 白い米待てるからな。

サンピン 明日の朝はいよいよ白いめしか。

くす 楽しみだなあ。

たけし うん、頑張れよ。

哲也 よし、頑張れよ。

たけし 下手に去る。みんな、頑張れよー、な

どといつて見送る。

克哉 おい、大丈夫か、たけし一人で行かせて。

くす ちょっとまずいんじゃないのか。

タバ あいつのことだから、案外米なんか買わないで本ばっかり買つてくるんじやねえか。

哲也 ま、あいつもそこまでバカじやないと思うけどな。

あっこ だけど、たけしのことだから米全部落としても気づかないで帰つてくるんじやないのか。

克哉 そりや、ありうる。ハハハ…。

上手よりピーピーと笛の音

夜、浮浪児達、思い思いのところで寝ている。

哲也 やべえ。さっきのおっさん警察に言いつけやがつたな。逃げるぞ。

みんな、下手へ走り去る。ラッパ、鞆磨き台を取りに戻る。復員姿の男登場。

ラッパ（男に手をつかまれ）わーっ、ごめんなさい。ごめんな…。

男 竜樹！

ラッパ おじさん、どうしてこんな所にいるの？

男 お前こそどうして父ちゃんを迎えに行かないんだ。

ラッパ えっ？

男 お前の父ちゃんの連隊の船、日本に帰ってきたんだぞ。

ラッパ えーっ。じゃあ、父ちゃん…。

サンピン（下手より走ってきて）なにしてんだよ。（ラッパをひっぱっていく）

上手からさっきの元軍人が警官と一緒に出てきて、「あっちです」といって下手へ去る。男も後に続く。

第四場

チビ か、かあちゃん。（ねほけている）

あっこ うるさいなー、もー……いてー。

ラッパ ごめん、俺やっぱり行くよ。

あっこ ラッパ…。あのおじさんの言つたこと信用してるの？

ラッパ うん。

あっこ いittai誰？あれ。

ラッパ 僕の近所の米屋のおじさん。出征の時一緒にだつたんだよ。部隊は違つたけどね。

あっこ 部隊が違うんだつたら、あなたの父ちゃんのことわかるわけないじゃない。

ラッパ それがさ。

克哉 会えるとはかぎらないぜ。

くす ん、なんだ？ あっこ、どうした？

あっこ ラッパ。

ラッパ そうじゃないよ。

くす お前、抜けるのかよー。

あっこ うるさいよ、くす。

哲也 なんだよ、夜中にガタガタうるせ…。なんだお

前？

ラッパ うるさいよ。

くす ほー。お前のその情けがラッパを殺すことをわかつてんのかね。

サンピン なんだとーっ。

ラッパ 父ちゃん…生きてると思う。きっと俺を捜してるとと思う。

哲也 どうして言いられるんだ。死亡通知だつて来たんだろ。

克哉 空っぽの骨箱だつて來たんだろ。

ラッパ おじさんが言つてたんだよ。父ちゃんの部隊が一ヶ月前下関についたんだつて。

あっこ あんた、それを聞きにいってたの、今日。

ラッパ ……うん。

克哉 お前あのおっさんから聞いてちょっと血迷つて死んじやつたけど、父ちゃんはまだわからないんだよ。

ラッパ 俺死んだことが今でも信じられないんだ。それを確かめに行くだけでもいいよ。頼む、行かせてくれ。

ラッパ かわんないよ、絶対。じゃ、ここを出て行くっていうのかよ。

クズ ラッパ 出て行く。頼む、みんな。母ちゃんは目の前で死んじやつたけど、父ちゃんはまだわからないんだよ。

ラッパ 大丈夫だよ。盗み方はみんなに教わったし、何としてでもやつていくから。なあ、頼むよ、みんな、行かせてくれよ。

サンピン てっちゃん、行かせてやろうよ、こいつ。後先何も考えてないよ。ただ今は父ちゃんに会いたい気持ちで一杯なんだ。

全員 ……。

サンピン なあ……。

あっこ ラッパ、ね、憶えてる？名古屋から訳もわからんないまま必死で東京に来たけど、また運良くなどりつけるとはかぎらないよ。

ラッパ ……わかってる。

あっこ ね、汽車にうまく乗り込んだけど、結局途中で見つかってつまみだされたじゃない。それにたとえ切符が買ったとしてもプラットホームにいれば、変な目で見られて、石ぶつけられて……またあんな思いするよ。それに、あんときは三人だったからまだ心強かったけど、途中ではぐれた和幸みたいになつたら、一人で何ができるの？あんたなんかに。

哲也 いくな！

チビ （寝言で）かーちゃん、かーちゃん。

みんな ……。

パパ てっちゃん、チビだって目の前で死んだかーちゃんのこと夢の中で探し回ってるんだよ。まして生きてるかもわからない父ちゃんを捜すラッパの気持ち、俺達何も言えないんじゃないかな。

チビ 悟りきったみたいなこと言うなよ。俺達が言わなか

かったら誰がこいつに間違いだってことわかるんだよ。

克哉 行つたら確実に死ぬぞ。

サンピン そのぐらいこいつ覚悟してるよ。

あっこ だけど、もし……本当に父ちゃんに会えたら

哲也 うるせえ、さっさと寝ろ！

チビ （立ち上がり）おしつこ。

あっこ こっちだよ。（チビの手を引いて下手へ連れていく。チビ、スッポンを踏む）

スッポン 何だ、このやろう。

タバ 何でもない。何でもない。いいから寝てろよ。ね

んねんよー、おころりよー、ねんねんよー。

たけし、下手よりリュックを担いでゆっくり登場。

たけし ただいま。

みんな お帰り、ご苦労さん。

哲也 見せる、見せる。あるよ。

くず 重い。

あっこ （上手より登場して）お帰り。

克哉 やつたな。大分重かったろう。

哲也 なつ、たけしだつてちゃんとできるだろう並のバカじゃないと思ってたけどよ。

パパ 人間やればできるんですね。

タバ 早くおろしてやれよ。チビ、めしだよ。

くず （リュックをかかえて）こんなにあるよ。

サンピン あける、あける。

くず 何だこりや、たけし。本なんか買ってきやがって。

哲也 あいつ本好きだったからな。

……、会えたなら……、会えるといいね。

あっこ さっき反対してたじゃないか。  
克哉 何ならお前も一緒に行くか。来た時と同じように。

あっこ 誰もそんなこと言ってやしないよ。

くす いいじゃない、二人共行けば、同じように名古屋から来たんだしさ。

あっこ 何だよ、その言い方は。

くす 出て行くやつはみんな出ていきやいいんだよ。

ラッパ やめてよ。やめてよ。けんかしちゃ、いけないよ。

哲也 哲也、ラッパ死ぬぞ。

サンピン うまくいくかもしれないじゃない。

くす でもラッパは……。

哲也 うるさい。これ以上ガタガタ言うな。もう二度と帰ってくるんじゃないぞ。

ラッパ てっちゃん、俺……。

哲也 （ラッパの頬をたたき）ラッパ、世間じや言い訳は通用しないぞ。みんな、寝るぞ！

サンピン ラッパ、見つからなかつたら帰つて来いよ。

ラッパ 見つかるとついですね。

サンピン てっちゃん、てっちゃんの父ちゃんも……。

ラッパ みんな、俺何にもできなかつたけど、ごめんね。

サンピン ごめんね。（下手へ走り去る）

ラッパ てっちゃん、てっちゃんの父ちゃんも……。

サンピン てっちゃん、てっちゃんの父ちゃんも……。

ラッパ うるさい。これ以上ガタガタ言うな。もう二度と

サンピン ラッパ、見つからなかつたら帰つて来いよ。

五升の米がどうしてないんだよ。

たけし 落としちゃったみたい。

あっこ どこに？

たけし わかんない。新橋の駅に着いた時前より軽いな  
と思って見たんだ。米、穴から逃げちゃったみたい。

あははは：

チビ この本はなんだよ。

たけし 農家でわけてもらったんだ。今時ないよ。こん  
な教科書。たったの二十円だよ、二十円。

パパ 米が残らず、本が残ったってわけですか。

たけし 本はリュックの穴から逃げられなかつたみたい。

あははは：

克哉 おかしくない！哲也、やっぱりまずかったみたい  
だな。

（たけしを殴つて）いつもてめえはそうなんだよ。

たけし いたつ。でも、この本ためになるよ。読んで捐  
しないよ。

克哉 おかしくない！哲也、やっぱりまずかったみたい  
だな。

（たけしを殴つて）いつもてめえはそうなんだよ。

たけし いたつ。でも、この本ためになるよ。読んで捐  
しないよ。

克哉 おかしくない！哲也、やっぱりまずかつたみたい  
だな。

（たけしを殴つて）いつもてめえはそうなんだよ。

つたら恨まれるのはその本なんだよ。

たけし じゃあ、この本売つて米買おうよ。

哲也 待て！お前その前にみんなに謝ること忘れてやし  
ないか。

克哉 ごめんはラッパの時だけでたくさんだよ。

たけし ラッパはいいんだよ。たけし、俺達腹減つてんだ  
よ。

克哉 ラッパはいいんだよ。たけし、俺達腹減つてんだ  
よ。

哲也 お前、本当に悪いと思つてんのか。

たけし うん、もうしない。

タバ もうしないはお前の口癖なんだよ。

克哉 食いもん取つて来い。

タバ みんなの腹がふくれる分だけ取つて来い。

チビ 米だよ。あたいは米が食いたいんだ。

タバ お前、本当に悪いと思つてんのか。

たけし うん、もうしない。

タバ もうしないはお前の口癖なんだよ。

克哉 食いもん取つて来い。

タバ みんなの腹がふくれる分だけ取つて来い。

チビ 米だよ。あたいは米が食いたいんだ。

タバ お前、本当に悪いと思つてんのか。

たけし うん、もうしない。

タバ もうしないはお前の口癖なんだよ。

克哉 食いもん取つて来い。

タバ みんなの腹がふくれる分だけ取つて来い。

チビ 米だよ。あたいは米が食いたいんだ。

タバ お前、本当に悪いと思つてんのか。

たけし うん、もうしない。

タバ もうしないはお前の口癖なんだよ。

克哉 食いもん取つて来い。

タバ みんなの腹がふくれる分だけ取つて来い。

チビ 米だよ。あたいは米が食いたいんだ。

タバ お前、本当に悪いと思つてんのか。

たけし うん、もうしない。

タバ もうしないはお前の口癖なんだよ。

克哉 食いもん取つて来い。

タバ みんなの腹がふくれる分だけ取つて来い。

チビ 米だよ。あたいは米が食いたいんだ。

タバ お前、本当に悪いと思つてんのか。

たけし うん、もうしない。

タバ もうしないはお前の口癖なんだよ。

克哉 食いもん取つて来い。

タバ みんなの腹がふくれる分だけ取つて来い。

チビ 米だよ。あたいは米が食いたいんだ。

タバ お前、本当に悪いと思つてんのか。

たけし うん、もうしない。

タバ もうしないはお前の口癖なんだよ。

克哉 食いもん取つて来い。

タバ みんなの腹がふくれる分だけ取つて来い。

チビ 米だよ。あたいは米が食いたいんだ。

第五場

けしと哲也が下手より走つてくる。

たけし てっちゃん、ありがとうもう少しでつかまると  
こだつたよ。

哲也 馬鹿野郎。

パパ オーイ、オーイ。（下手袖より声）

哲也 ここだよ。

パパ （下手より走つてきて）けが、なかつたですか。

たけし うん、大丈夫。

パパ よかつたですね。

たけし うん。

哲也 こいつ倉庫に盗みに入つて五人くらいに追いかけ  
られていたんだよ。

パパ 倉庫？

哲也 ああ、ありやきっと米軍の食料倉庫だよ。

パパ そんな危ないことを。

たけし こんな大きな倉庫の中にこんな大きな箱があつ  
て、パイナップルやりんごの缶詰がいっぱいあつて：

パパ そんなことしなくても芋で十分ですよ。

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

たけし ドジばかりしているからだろ。

哲也 ああそうだよ。でも、そればかりじゃない。お前  
は人の事を考えないからだ。

パパ もういいじやありませんか。たけしだつて無事だ

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

たけし ドジばかりしているからだ。

哲也 ああそうだよ。でも、そればかりじゃない。お前  
は人の事を考えないからだ。

パパ もういいじやありませんか。たけしだつて無事だ

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

たけし ドジばかりしているからだ。

哲也 ああそうだよ。でも、そればかりじゃない。お前  
は人の事を考えないからだ。

パパ もういいじやありませんか。たけしだつて無事だ

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

たけし ドジばかりしているからだ。

哲也 ああそうだよ。でも、そればかりじゃない。お前  
は人の事を考えないからだ。

パパ もういいじやありませんか。たけしだつて無事だ

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

たけし ドジばかりしているからだ。

哲也 ああそうだよ。でも、そればかりじゃない。お前  
は人の事を考えないからだ。

パパ もういいじやありませんか。たけしだつて無事だ

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

たけし ドジばかりしているからだ。

哲也 ああそうだよ。でも、そればかりじゃない。お前  
は人の事を考えないからだ。

パパ もういいじやありませんか。たけしだつて無事だ

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

たけし ドジばかりしているからだ。

哲也 ああそうだよ。でも、そればかりじゃない。お前  
は人の事を考えないからだ。

パパ もういいじやありませんか。たけしだつて無事だ

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

たけし ドジばかりしているからだ。

哲也 ああそうだよ。でも、そればかりじゃない。お前  
は人の事を考えないからだ。

パパ もういいじやありませんか。たけしだつて無事だ

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

たけし ドジばかりしているからだ。

哲也 ああそうだよ。でも、そればかりじゃない。お前  
は人の事を考えないからだ。

パパ もういいじやありませんか。たけしだつて無事だ

哲也 なあ、たけし。どうしてみんながお前を責めるか  
わかるか。

つたんですから。

哲也 でも、他の奴等がつかまつたかもしれない。俺や  
克哉達がみんな無事で良かつたものの、つかまつてた  
らどうするんだよ。

パパ でもね、たけしもこんな事二度としないと反省し  
ている事だし……。

哲也 別になあ、お前がドジやつたからって怒つてんじ  
やないぞ。お前の考え方気がにくわないんだ。

たけし 俺、何か悪い事した？

哲也 みんなが命がけで働いている時、お前何してんじ  
に食わせてもらつているんだぞ。

たけし 見張りとか……。

哲也 それだけだろ。チビを見てみろ。あいつは体が小  
さいが小さいなりに頑張つているんだぞ。お前はチビ

に食わせてもらつているんだぞ。

たけし 俺だってさ、今は何もできないけど、いつかみ  
んなの役に立とうと思って勉強しているよ。

哲也 俺だけだ。チビを見てみろ。あいつは体が小  
さいが小さいなりに頑張つているんだぞ。

たけし 全然読めないんだぜ。

哲也 俺だって九九なんて言えねえよ、ニニンガ五、三  
三ガ六。

たけし すげえー。

パパ 全然違つてます。

哲也 そんなもんわかんなくていいんだよ。九九や字を  
知らなくとも今こうして俺は飯をくつていてる。誰の世  
たよな。

チビ うるさい。

たけし チビーっ。

チビ うるさい。

タバ やられちまつたよ。

チビ いたそう。

タバ うまく逃げられたけどまいったな、こりや。

たけし 大丈夫?

克哉 大丈夫じゃねえよ。

哲也 見ろよ、お前のおかげでタバだつてこうなつちまつたんだぜ。パパ、どんな能書きされたつて、仲間にかけがさせるくらいなら邪魔なだけなんだよ。

パパ タバがこうなつてしまつたのはいけない事だと思ひます。だけど、たけしはいつか役に立とうと思って勉強しているんです。

克哉 なんだよ、またたけしの勉強の話してたのかよ。

タバ たけし、勉強やめろよ、お前。

あっこ どうせ頭ないんだからよ。

サンピン 頭がないから勉強してるんだよ。

哲也 サンピン、お前たけしの肩持つのかよ。

サンピン そういう訳じやないけど。

克哉 俺達が走り回つて食いもん集めてる間こいつ何もしてないんだぞ。

タバ みんなの役に立つどころか足ひっぱつてるじゃねえかよ。

パパ まだ役に立つ機会がないだけです。

たけし 勉強してるよ、勉強。みんなの役に立つために。

タバ みんなの役に立つどころか足ひっぱつてるじゃねえかよ。

克哉 俺達が走り回つて食いもん集めてる間こいつ何もしてないんだぞ。

吉野刑事・警官、哲也に手錠をかける

哲也 なんで手錠なんか。俺はやつちやいないよ。

吉野刑事 調べればわかることだよ。(ポンと哲也を前に押す。)

吉野刑事・警官、哲也に手錠をかける

第六場 第五場より照明のみによる転換。

取り調べのシーン。中央にサスの明かり。そこに机があり哲也がうずくまっている。浜田刑事、吉野刑事が竹刀を持って調べている。後ろにはM Pが二人、刑事、警官が数人立っている。更に後ろに浮浪児が後ろ向きで立っており、シルエット。途中から哲也机の上に上げられ、浮浪児達はもがくような身振り。

第六場より照明のみによる転換。  
哲也、前にうずくまっている。浮浪児、哲也を取り囲む。刑事、警官数人立っている。

第六場 第七場

吉野刑事 証拠不十分だ。今日のところはこれで見逃してやる。(警官、哲也の手錠をはずす)

浜田刑事 哲也、だけど別にシロになつた訳じやないぞ。  
あっこ ひでえ!

哲也 おい、くず。たけし見つかったぞ。  
くず たけし、お前やばい事やつただろう。  
克哉 どうした?

くず 浜田刑事や吉野のやつら、おまわりみんなで俺達を捜しているみたいだぞ。

哲也 ばれたのかなあ。

サンピン そんなにすぐわかる訳ねえよ。

あっこ わかんないよ、あいつらカンいいから。

たけし! 世話かけんなよな、この馬鹿。

克哉 やばいよ、こっちへきたよ。

上手より刑事、警官登場。

浜田刑事 よお。相変わらずけんかか? 進歩がないな。

チビ 背伸びたか?

浜田刑事 あっこ、太つたな。なに食つてんだか。

哲也 浜田のおじさん、いったい何の用だい。今日は浮浪児狩りの日じゃない筈だぜ。

吉野刑事 ああ、そうだ、今日は違う。

克哉 ジやあ、いつたい何の用だよ。

浜田刑事 ああ、ちょっと人探しをしている。

哲也 人探し?

浜田刑事 ああ、そうだ。たいした奴だよ、アメリカさに押す。)

克哉 浜田のおじさん、ちょっとやりすぎじゃないのか。

サンピン たかがかつぱらいでひどすぎるよ。

吉野刑事 たかがかつぱらい？ 何だ、その言いぐさは。

サンピン だつて：：

吉野刑事 今までは大目に見てきた。お前達もこれに懲りて少しは反省するんだな。

哲也 イヌ！

浜田刑事 犬とはなんだ。

哲也 犬だから犬って言つたんだよ。

吉野刑事 なめるな！（哲也を殴る）

チビ やめろよ。

哲也 取り調べの最中に後ろにM Pがいたよな。ありやなんだ。

浜田刑事 お前等が進駐軍の物資を取つたからだ。

哲也 進駐軍にこますりやがつて。

吉野刑事 なんだと。

哲也 俺達が今までどんな物を取つたって、こんなひどい思いをしたことはないぞ。たかが窃盗未遂っていうのによ。

吉野刑事 なんだ。

克哉 哲也、こいつらお前を殴りながらアメリカさんの顔色うかがっていたんじゃないのか。

タバ ごますりか。

克哉 哲也、こいつらお前を殴りながらアメリカさんの方にや弱いんだ。

タバ 普段えらそうなこと言つてるくせに、所詮大きな力にや弱いんだ。

哲也 刑事だつて所詮人間だ、我が身かわいさは人一倍

タバ 要領か？

パパ 体裁ですか？

吉野刑事 なんだとー。

哲也 これだよ。都合が悪くなつたら自分の感情で俺達を殺そつとする。みんな、これが大人の世界だよ。

浜田・吉野 哲也、なめるな。（哲也に殴りかかる）

浮浪児 やめる。いいかげんにしろよ。

吉野刑事 お前達にはまだ何もわかりやしない。

浜田刑事 確かに俺達は刑事でありながら生活をしょつてている。お前達にえらそうな事は言えんが、いい事か悪い事を教える事ぐらいはできるぞ。

あっこ それが嘘なんだよ。

克哉 まだもつたいつけてんのか。

哲也 騙されるな。これがこいつらの正体だ。

浜田・吉野 いいかげんにしろ。

浮浪児 スッポン！

浜田刑事 なんだ、それは。刺すのか。

吉野刑事 やつてみろ、お前達こそそういうもので片付けようとしているじゃないか。度胸があつたらしっかり刺せ。こいつ。（スッポンの刺し出すナイフを蹴りあげ）なめんなよ。（再び蹴る）

サンピン だよな。

吉野刑事 てつちゃんをそこまで殴らなきゃ自分の体裁が保てないんだよ。

チビ イヌ！

吉野刑事 なんだと。

哲也 おお、よく吠えること。（吉野刑事、哲也を殴る）あっこ もうやめろよ。これ以上殴つたら死んでしまうよ。

哲也 さっきの続きかよ。殴れよ、もつと殴ればいいだろ。

チビ イヌ！

吉野刑事 てつちゃん、感情的になつちゃいけない。

タバ これ以上やられたら殺されるよ。

吉野刑事 アメリカさんがいないともうおしまいか。ペツ！（殴る）

哲也 アメリカさんじやねえかよ。俺達、収容所に入れれば三度の飯も食えて、ちゃんと勉強できると言つたけど、あんた達は俺達にいつたい何を教えてくれるんだよ。

克哉 哲也、やめとけ。

あっこ それ以上言うとやばいよ。

哲也 だけど、ひとかわむいたらそこら辺歩いている大人とおんなじじゃねえかよ。俺達、収容所に入れれば三度の飯も食えて、ちゃんと勉強できると言つたけど、あんた達は俺達にいつたい何を教えてくれるんだよ。

克哉 大人のずるさか？

吉野刑事 たけし、お前にこんな度胸があるなんて知らなかつたよ。

たけし てつちゃんをいじめるのはもうやめてくれよ。

吉野刑事 いじめているんじやない、教えてやつてんだけよ。悪い事をした償いをな。

たけし 俺だよ。

吉野刑事 何だ？

たけし アメリカさんの倉庫に入つたの、俺だよ。

浜田刑事 たけし、お前か。だったら何故哲也しょっぴく時に言わなかつたんだ。

哲也 俺がやつたんだよ。

吉野刑事 哲也、臭いかばいあいはヘドが出るぜ。

浜田刑事 よし、窃盗未遂、公務執行妨害、及び殺人未遂で連行する。

吉野刑事 おい。（たけしの胸ぐらをつかむ。警官、たけしの後ろ手をとる。）

浮浪児 たけし！（口々に叫ぶ）

たけし ごめんね。みんな俺が悪いんだよ。

浜田刑事 いい加減お前等も目をさせ。ガキの集まりはいつかやけどするぞ。

刑事達、たけしを連れ下手に去る。浮浪児、哲也に駆け寄る。

ひでーことすんな、あいつら。

これが今の日本の現状です。

たけし大丈夫かな。

タバ 殺人未遂までついたら少年院行きかな。

チビ かもしれないな。だけどあいつにとっちゃこれで苦勞がなくなるかもしれないな。

サンピン そんなことわかんねえよ。

タバ くす だけど中に入りや、めしも食えるし、あいつの好きな勉強だつて。

哲也 おい、行くぞ！

タバ どこへ？

哲也 街を出る。

タバ 街？

哲也 この東京を出て行く。

あっこ 哲也！

哲也 たけしも連れて行く。

浮浪児 くす えっ！ だけど、あいつはおまわりに。

哲也 取り返すんだ。たけしを取り返してこの東京を出

くす よく考えろよ。 (上手へ去る)

チビ チビ、上手に走るとスッポン前に立ちそのまま下手に歩いて行く。チビ、二・三歩上手に行きかけて下手に走る。

サンピン、下手へ走りかける

チビ チビ。そんなに走るところびますよ。

サンピン うん。(パパと連れだち下手に去る)

タバ サンピン！

サンピン なんだよ。

タバ ::::。

サンピン、再び走りかかると

タバ サンピン！

サンピン なんだよ。

タバ ::::。

サンピン、また走りかかると

る。

克哉 できるのか、哲也。お前殴られて頭おかしくなつたんじゃねえか。

あっこ あたしも行く。

タバ 東京出てどうするんだよ。どこへ行つたって同じだよ。

哲也 それよりここにいておとなしくしてりや警察も何もしないよ。

タバ そうしたい奴はそうしろ。だけど俺はもう一度たけしと一緒に何が良くて何が悪いのかを勉強するためにここを出る。ただし、悪い事とはもうおさらばだぞ。

克哉 何か、このままじゃ俺自身が腐つちまうような気がする。

タバ 哲也、パクられたらどうするんだよ。

克哉 くす たけしを助けたら俺達まで少年院送りだよ。

克哉 そんな事俺断るよ。俺は東京に残る。お前とはおさらばするよ。お前はいつも俺をやばい事にひきずりこむからな。

哲也 好きにしろ。来る奴は来い。だけど生半可な気持ちで来るんじゃないぞ。 (下手へ去る)

克哉 俺もここを出るぞ。あんまりおまわりに睨まれてちや住みづらいからな。ついて来る奴は来い。俺は別にかまわないぜ。(上手へ去りながら)あんまりつまんない事考えていると浜田の言つた通りやけどすることなるぜ。じやあな。

タバ サンピン！  
サンピン なんだよ！  
タバ ::::。カゼ、ひくなよ。  
サンピン お前もな。 (笑顔で言う)

#### 第八場

サンピンは下手へ、タバは上手へ同時に走り去る。

刑事・警官、たけしを連れて下手より登場。哲也飛び出し立ちはだかる。

吉野刑事 なんだ。  
哲也 たけしを返してくれよ。

浜田刑事 血迷った事言うんじやない。  
哲也 本気だよ。

浮浪児達、バラバラと飛び出す。

浜田刑事 なんだ、お前等。  
吉野刑事 どういうつもりだ。  
あっこ 私達もう一回やり直すよ。  
チビ だから、たけし返してくれよ。  
たけし チビ::::。

浜田刑事 何を寝ぼけた事言つてゐるんだ。ただの浮浪児狩りならなんとでもなるが、たけしには殺人未遂がついているんだ。

吉野刑事 たけしを助けてどうしようつていうんだ。お前達どこへ逃げたって所詮日本の中だぞ。

浜田刑事 浮浪児の名前はどこへ言つたって消えることはないんだ。

哲也 僕達、生まれ変わる。

吉野刑事 どうやつて？

サンピン 勉強する、どうやつて生きていけばいいかを勉強する。

パパ 僕たち、まだ子供なんです。何を勉強していいのかもわかつてないんです。

吉野刑事 今さら子供ぶつた事言つてんじゃねえ。

浜田刑事 だつたらお前達おとなしく収容所でも、孤児院でも行けばいいじゃないか。

吉野刑事 あそこに行けば三度の飯だって食えるし、勉強だってできるんだよ。

哲也 何が何だかわからないままで押し付けられるのはもうたくさんだ。

パパ あんた達はあんた達の世界を築いてきた。

あっこ その世界にあたし達をはめ込むのはやめてくれよ。

吉野刑事 なにつ！

浜田刑事 これから僕達は何が良くて何が悪いのかをもう一度出て俺達なりにやり直すんだ。

吉野刑事 哲也、うまくはめたな。

吉野刑事 許さん！

哲也 許すも許さないもたけしは返してもらうぜ。

吉野刑事 ふざけるな！

哲也、吉野刑事に殴りかかる。

吉野刑事 お前、頭いかれたんじゃないか。

哲也 そうだよ、俺達みんな。

浮浪児全員 いかれちまつたぜ。（浮浪児、中央に集まる）

警官達下手、上手両方から登場。ロツクのリズムにのり、浮浪児と警官、乱闘のポーズ。

哲也 たけし、しつかりついて来いよ。（以下、乱闘

のポーズをとり、集まつたり離れたりしながら）

たけし てっちゃん、怖いよ。

浜田刑事 馬鹿な事はよせ。

パパ 行かせて下さい。

吉野刑事 どこへ逃げてもつかまるぞ。

サンピン あんた達に俺達がつかまえられるのか。

チビ 今までのあたい達とは違うよ。

浜田刑事 やめんか。

一度考えてみるよ。たけしを連れてこいつと一緒にもう一度考えてみるよ。

吉野刑事 お前達どうして欲しいんだ。腹一杯飯が食えることか。

哲也 僕達にもよくわかんねえ。

サンピン もう一度考えてみるよ。

哲也 そして本当に欲しい物も。

チビ たけし返してくれよ。

吉野刑事 甘ったれるな。

サンピン たけし返してくれよ。

吉野刑事 あっこ たけし返してくれよ。

サンピン たけし返してくれよ。

刑事・警官  
浮浪児・警官  
グッ や  
ド やだ 戻れ!  
・め ! れ !  
バ ろ !  
イ !  
!

ロックのリズム  
シルエットのみ  
高まる

|  
幕  
|